

研究主題	<p>【Ⅰ 造形教育で培う力を考える】</p> <p>児童自身で試行錯誤しながら自分が表したいことを描く力を培い、つくりだす喜びを味わう創作活動の工夫</p> <p>ー第3学年「わたしだけの秘密の国 写真と絵の具のコラボレーション」の実践を通してー</p>
------	--

取手市立 白山小学校  
指導者 鳴海 ひと美

## 1 テーマについて

図画工作科の学習においては、児童が作品のよさや美しさ感じ、形や色などの組み合わせを工夫するなどしながら、発想・構想の能力や創造的につくり出す能力を伸ばし、自分らしい表現を追求する力を育てていくことが求められる。しかし、意欲はあっても自分が表したいものがなかなか思いつかなかつたり、表したいことがあっても技能や自信が足りなかつたりして、「つくりだす喜び」を味わうことができずに、作品に取り組む児童も見受けられる。そこで、たくさんの画材や技法を色々と試して新しい発見をするという体験を通して、作品をつくる楽しさを繰り返し実感し、豊かな発想ができるような授業展開を目指したい。

画材や技法をいろいろと試すためには基本的な技能を身につけていなければならないが、水彩絵の具の基本的な使い方を理解している児童が少ない。好きな色を見つけ出すことができても余計な色が混ざってしまい、意欲が低下してしまう児童も見られる。そこで、水彩画に使われる様々な技法を覚えれば、作品の幅が広がり、より作品づくりの楽しさを味わえるようになると考える。

## 2 実践例

### (1) 目標

写真を撮ることで場の構成のおもしろさを味わい、撮った写真を基に表したいことに合わせ、基本的な水彩絵の具の使い方を理解しながら多様な技法を使い、色をつくったり構図を考えたり何度も試して、自分の納得できる作品をつくることができる。

### (2) 題材について

本学級の児童は、「図工が好き」と答える児童が32人中22人と若干少なく、作品をつくることに対して苦手と感じる児童が多い。主な原因として、自分が表したいことがあっても、経験不足により自分の思うように絵を描けないもどかしさや、自分の描きたい物をどう画用紙の中に表現すれば良いのか分からない等の理由があるのではと考える。

本題材は、小学校学習指導要領解説図画工作編第3学年及び第4学年内容A表現(2)ウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」を主な内容としている。カメラで撮ったものを作品づくりの材料として取り入れることで、児童の意欲を高めながら作品の構図を考える楽しさを味わわせたい。また、児童に水彩絵の具の基本的な使用方法を教え、それを基に作品づくりの中で様々な技法を楽しみながら試させて、用具を使う経験を深めていきたい。

絵を描くのが苦手と感じる児童でも撮影の仕方を工夫すれば楽しく簡単に1枚の作品をつくることができる。児童が思いを込めて撮影した写真を画用紙に貼り付け、写真に写っていない空白の部分に別の世界を空想し水彩絵の具を使って自由に発想させ、最後に自分自身の写真を作品の中に自由に動かし貼り付けることで自分の思いや考えたことを表現させたい。また、授業の合間に水彩絵の具の使い方を教え、いろいろな技法を試す時間を設け、自信を持って作品づくりに取り組める手助けをしていきたい。そのために、児童一人ひとりに色手帳を用意し、そこにお気に入りの色をつくったり、多様な技法で絵を描いたりして、「世界でひとつだけの色手帳」をつくらせて、用具を扱う経験を深めていきたい。

(3) 題材の評価規準

図画工作への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・進んで写真を撮ったりさまざまな技法を試したり，楽しんだりしながら活動することができる。	・画用紙の上で写真を動かしたり絵の具を使ったり多様な技法を試しながら，感じたことや考えたことなどを表現することができる。	・構図を考えながら写真を撮ることができる。 ・絵の具を表したいことに合わせて効果的に使用している。	・鑑賞会を開き，楽しみながら友人の作品を見て，よさや表現の工夫に気付くことができる。

(4) 指導と評価計画（7時間扱い）

時間	学習内容及び活動	評価規準・【評価方法】
第一次 ①	・外に出て，植物の側にお気に入りの物を飾って好きな角度で写真を撮ったり，好きな自分のポーズを撮ったりする。①	・友人と仲良く楽しみながら積極的に写真を撮っている。 <b>関【観察・写真】</b>
第二次 ⑤	・基本的な絵の具の使い方を学び，好きな色をつくったり，いろいろな道具を使って多様な技法を試したり，色手帳のページを増やす。①・② ・撮った写真を画用紙に貼り付け，写真に合わせて自分の思いや考えたことを描いたり色を塗ったりする。③・④ ・作品に自分の写真を貼り付け，作品を仕上げる。（5/5本時）⑤ ・友人の製作途中の作品を見て，よいところを伝え合う。①～⑤（毎時行う）	・多様な技法を使って絵の具を使うことができる。 <b>技【観察・作品】</b> ・写真に合わせていろいろ試しながら感じたことや考えたことを表現することができる。 <b>想【観察・作品】</b> ・お互いの作品のよいところを積極的に見つけることができる。 <b>関【観察・付箋紙】</b>
第三次 ①	・友人の作品を見る。①	・楽しみながら友人の作品を見て，よさや表現の工夫に気付くことができる。 <b>鑑【観察・ワークシート】</b>

(5) 本時の学習

◇目標 ・水彩絵の具を使った様々な技法で絵を完成させることができる。

・自分の写真を動かして自由な発想をすることができる。

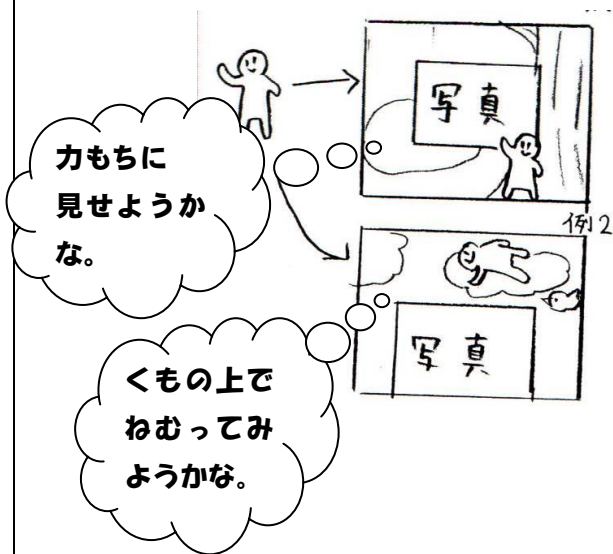
◇準備 新聞紙 実物投影機 プロジェクター 付せん 網 ブラシ スポンジ ストロー 掲示物

（児童）絵の具 のり 前もって切り抜いた自分自身の写真 色手帳（試し紙）付箋紙

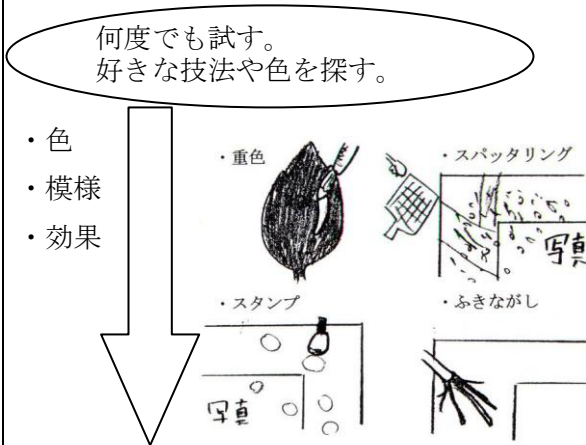
◇展開

学習内容及び活動	教師の働きかけ ⑨評価 ⑩発問 ※個への指導
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>絵を完成させて自分をひみつの国にしようたいしよう。</p> </div> <p>・教師の活動を見せる。</p>	<p>・前時に，多様な技法を試しながら描いた作品について賞賛する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>前を見て下さい。小さい先生です。絵の中に置くと，物語の登場人物になったようですね。車の上に乗せようかな。空を飛んでみようかな。絵の中だと何でもできますね。</p> </div> <p>・プロジェクターで教師の作品を映し出し，そこに教師の写真を動かしながら話をし，これからどのような学習活動をするのかを視覚的に理解させ，児童の学習意欲を高める。</p>

2 自分の写真をあれこれ動かしながら自分の一番気に入った構図を探す。



3 更に絵の具を使って仕上げる。  
 ・道具や技法、色を使用する前に、色手帳に試してから作品づくりをする。



**スタンプで光をつくったよ。**

**あみと歯ブラシで、雨をふらしたよ。**

失敗の例と対策

- ・絵の具がはみだす。
- ・思った色や表現と違う。
- ・汚れてしまう。

新しい発見  
経験の積み重ね  
作品作りへの意欲

濡れたタオルで拭く。  
クレヨンで上から描く。  
新しいものにつくり変える。  
色手帳に試し描き。

・グループでお互いの作品を見せ合いながら、作品をつくることの楽しさを味わわせる。

のりをつけてすぐに貼り付けるのではなく、写真をたくさん動かして、自分が一番好きだと思う場所に貼り付けましょう。友人に見せながら一緒に考えるのもいいですね。

※悩んでいる児童には、「実際にはできないことを作品の中でやってみよう」などと声を掛け、一緒に児童の気持ちに寄り添いながら考えたりアドバイスをしたりする。

⑧ 写真を動かしていろいろ試しながら感じたことや考えたことを表現することができる。 **発【観察・作品】**

・前時までに水彩絵の具を使用した多様な技法を教え、できるだけたくさんの用具を扱う経験をさせておく。  
 ・絵の具を使ったさまざまな技法が使えるように道具をあらかじめ用意し、使い方を思い出せるよう説明付き看板を並べておく。

網や歯ブラシ、ストロー、スタンプなど、いろいろな材料がありますが、色をつくる時と同じように、水の量や見え方を色手帳に試してから、作品づくりをすると安心して進めることができますよ。

・勧めても、試さない児童が予想されるが、作品をつくりながら、表し方を見つける児童もいるので、そのまま続行させる。  
 ・失敗したと訴える児童がいたら、失敗の中から新しい発見があることを伝えて、失敗を生かす方法や、次は試し紙を使ってみるなどの助言をする。  
 ・画用紙の塗り残しがないように色を塗らせ、隣同士をまったく同じ色に塗らないように伝える。

※絵に自信がない児童には、作品のよいところを具体的にほめ、意欲を持たせる。

※活動が終わってしまった児童には色の塗り残しはないか他に工夫するところはないか声を掛ける。

⑨ 既習の技法を生かした作品づくりをしているか **創【観察・作品】**

<p>4 友人の作品を見て，作品のすぐれたところを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友人の作品のいいところを探し，付せん紙にコメントを書いて相手に渡す。</li> </ul> <p>5 次時の確認をして後片付けをする。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>友人の作品の色や工夫していることをさがして、「いいな」と思うことを書きましょう。書いたメモを相手の目を見てわたしましょう。</p> </div> <p>※悩んでいる児童には，教師の助言やグループの友人の感想を参考にかけるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を見せて自分の「秘密の国」を説明し合うことを伝え，次時の活動に意欲を持たせる。</li> </ul>
---	---

### 3 成果と課題

#### 【成果】

#### ① 発想・構想の段階

- カメラ使用で，お気に入りの1枚を撮るために試行錯誤しながら，表し方を考えさせることができた。



「木に引っかけて写真を撮ってもいいかな?」「花と一緒に撮るとかわいいよ。」など，家から持ってきたおもちゃをいろいろな場所に寄せたり置いたりしながら友人と相談している姿が見られた。普段，「絵が苦手」と言っていた児童も意欲的に活動していて，どうすれば，面白い物を撮れるのかを考えていた。

児童の撮影の様子

#### ② 作品づくりの段階

- 色手帳をつくりながら，楽しんで絵の具の基本的な使い方を覚えることができた。



水の量



色の彩色



児童のパレット



バチック

「車を手で止めたよ!」

本学級の児童の中で，バケツやパレットの使用方法を正しく覚えていたのは，10人ほどしかいなかった。そこで，バケツの絵やパレットの絵を黒板に貼りだして，いつでも，自分の水彩絵の具の使用法を確認しながら作品づくりができるよう配慮した。また，水の量と色の濃淡の関係を調べたり，絵の具を混色して自分の好きな色を探したり，色手帳を練習用紙として使用することで色手帳のページ数が増え，児童自身が作品づくりをする上で，参考にできるものになっていった。「失敗してもよいから，いろいろ試すんだよ。」と，いうことを伝えていたので，意欲的にバチックや重色などの練習も行い，いろいろな技能を覚えていくことができたようだ。



○ できた作品に自分の写真を貼り付けることで、児童の願いや思いを表現させることができた。



車を手で止めたよ！



光の道の上を歩いてみたよ。



そこに置くとおもしろいね。

自分の写真を自分でつくった作品の中へ入れると、「車を手で止めたら、すごいよね。」「お気に入りのくまとお昼寝するんだ。」など、児童の思いをつぶやきとしてたくさん聞くことができた。また、グループの友人とお互いの絵を見せ、相談し合いながら、写真の位置を決める姿も見られた。

○ 自分が表したいことを自由な発想で、考えることができた。

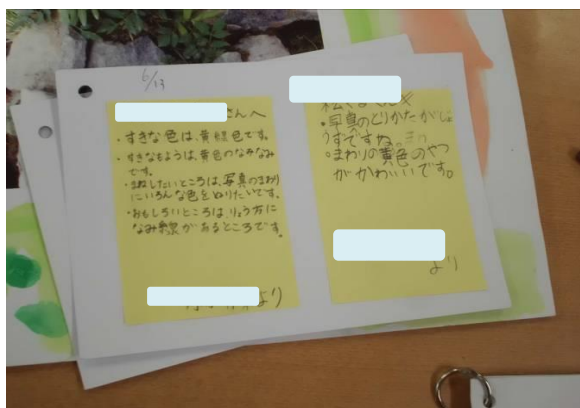


スポットライトの光を表現した作品

普段なら、「〇〇したいのですが、どうすればいいですか？」と聞いていた児童が、多様な技能を使って、自分が表したいことを表現することができた。ある児童は、スポットライトの光をどう表現するか悩んでいたが、自分にとって明るいと思う色を作り出し、ブラッシングして、自分自身にとって満足できる作品をつくることができたようだ。

### ③ 鑑賞の段階

○ 互いの作品を見て、よさや面白さを認め合うことができた。



友人からのコメントが書かれた付箋紙



お互いの作品を見合うグループ

楽しそうに、互いの作品を見合う児童の姿が見られた。作品に使われている色や、作品の工夫を中心に鑑賞をし、友人の作品の良いところや好きなどところを書かせることで、自分の作品に自信を持たせたり、友人のよいところを参考にしたりすることができた。

#### 【課題】

- ① 作品づくりをする前に、児童が表したいことを明確にする。

さまざまな道具に触れて、経験を深めるとい点では良かったのだが、ブラッシングをするのが楽しくなってきたてしまい、見た目を考えないで作業を進める児童が見られた。多様な技法を紹介するのに合わせて、それらの技法がどんなものに使われているのかを紹介することが大切であると思った。また、作品に取りかかる前に、どんな世界へ行ってみたいか学級で話し合い、どんなものをつくるか明確にしておくことの必要性を感じた。

- ② 新しい技法を試す意欲を高めるための方法を考える。

新しい技法に挑戦しないで色を塗り広げるだけの児童がいたので、表現活動に入る前にもっといろいろやってみたいと感じさせられる見本の絵を用意したり、製作途中で友人の作品を実物投影機などで、大きな画面で紹介したり意欲を高める方法を考えなければいけない。

- ③ 色手帳の研究。

今回、児童が色や新しい技法を確かめたり振り返ったりするために「色手帳」というものを作成させてみた。(手軽に使えるよう、八つ切り用紙を4分の1に切ったものに、穴を開けリングをつけた簡単なもの)「色手帳」がこれからの授業でも活用できるように、児童自身の思いや考えを書き込めるようにしたりワークシートを貼れるようにしたり、一人ひとりの児童の変化が分かるような工夫、研究していきたい。

最後に、試行錯誤しながら基礎的な技能をつけるためには、いろいろなことにチャレンジしようとする児童の意欲の向上が不可欠と感じた。しかし、楽しいだけの活動では、児童の意欲は続かない。児童自身がいろいろ試して、新しい発見をする。そして、自分で発見した経験を基にして、次の表現活動を行い、更に新しい発見をする。このような体験を積み重ね「つくりだす喜び」を味わわせることが、児童の意欲向上の第一歩だと思う。そのためには、児童の自主性に任せるだけでなく、教員が正しい用具の使い方を教えたり、出来上がった作品について具体的にほめたりしながら、つくり出す力を培うべきだと実感することができた。これからも「つくりだす喜びを味わう創作活動の工夫」の多様な授業にて研究を続けていきたい。

#### 4 参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成 20 年 8 月